

資料

群馬県内におけるナガレタゴガエルの分布

高橋克之¹・金井賢一郎²

¹群馬県立自然史博物館：〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1

²日本爬虫両棲類学会：〒371-0833 群馬県前橋市光が丘町5-8

キーワード：ナガレタゴガエル，群馬県，分布

Distribution of Stream Brown Frog in Gunma Prefecture

TAKAHASHI Katsuyuki¹ and KANAI Kenichirou²

¹ Gunma Museum of Natural History: 1674-1, Kamikuroiwa, Tomioka, Gunma 370-2345, Japan

² The Herpetological Society of Japan: 5-8 Hikarigaoka, Maebashi, Gunma 371-0833, Japan

Key Words : Stream Brown Frog, Gunma Prefecture, Distribution

はじめに

ナガレタゴガエル (*Rana sakuraii*) は、1978年2月27日に東京都日原川上流で桜井淳史が発見し、1990年松井孝爾・松井正文によって新種と記載された(松井1978, 1982, 1990)。

群馬県内では1981年4月5日、金井賢一郎・廣瀬文男によって多野郡上野村野栗沢川小丸沢で分布がはじめて確認された(金井・廣瀬1982)。現在、群馬県中部から南西部にかけての山地、東部の山地、北東部の積雪地帯(平均積雪量0.5~1.5m)でも確認されている(金井2002)。

群馬県立自然史博物館では2006年9月に金井賢一郎からナガレタゴガエル26点の寄贈を受けた。本稿ではその標本についてまとめた。また2006年までに確認された群馬県におけるナガレタゴガエルの分布について合わせて報告する。

資料

ナガレタゴガエル

ナガレタゴガエル(図1)はタゴガエル(*Rana tagoi tagoi*)と似た形態をしているが、特にみずかきの発達が著しく、繁殖期には体側と腿部の皮膚が襞状に伸びる(図2, 図3)。

ナガレタゴガエルは溪流性で、晩秋から初冬にかけて流水域に集まり、水中の岩石の下で越冬する。卵は水中の岩石の下に付着し、孵化した幼生は流水に流れ出る。その生態は無尾類としては、世界的にも数少ないものである(前田・松井1993)。一般的なカエルの産卵習性とは異なるために発見が遅れたものと思われる。



図1 ナガレタゴガエル



図2 胞接するナガレタゴガエル 上♂, 下♀



図3 後肢のみずかきの発達が著しい 左♂, 右♀

表1 ナガレタゴガエル標本の測定値 (mm)

	収蔵番号	性別	体長	頭長	頭幅	手腕長	脛長
1	GMNH-VR-442	♂	45.6	18.2	16.6	18.0	24.6
2	GMNH-VR-444	♀	44.7	16.3	15.8	16.7	23.4
3	GMNH-VR-445-1	♀	53.0	13.8	18.8	22.5	28.1
4	GMNH-VR-445-2	♀	51.2	14.8	18.2	20.4	28.0
5	GMNH-VR-446	♂	41.9	15.8	16.5	16.7	22.7
6	GMNH-VR-447-1	♀	46.0	17.4	15.5	20.3	26.2
7	GMNH-VR-447-2	♀	46.2	13.4	15.6	20.2	25.6
8	GMNH-VR-447-3	♂	39.8	13.4	15.9	17.0	22.6
9	GMNH-VR-447-4	♂	41.7	16.2	14.5	19.0	23.4
10	GMNH-VR-447-5	♂	37.2	13.0	13.2	15.8	21.8
11	GMNH-VR-451	♂	41.2	15.0	17.1	18.3	22.5
12	GMNH-VR-452-1	♀	43.8	16.5	18.1	18.6	25.9
13	GMNH-VR-452-2	♂	44.5	16.1	17.3	19.7	24.5
14	GMNH-VR-452-3	♂	45.5	14.8	17.6	19.5	24.8
15	GMNH-VR-452-4	♂	45.9	16.4	17.1	19.4	26.0
16	GMNH-VR-452-5	♂	39.9	14.8	14.5	17.4	23.2
17	GMNH-VR-452-6	♂	39.2	13.3	13.3	17.5	21.7
18	GMNH-VR-454-1	♂	44.7	16.3	17.9	20.2	24.2
19	GMNH-VR-454-2	♂	43.5	15.0	18.9	19.7	25.4
20	GMNH-VR-454-3	♂	38.8	13.6	15.2	19.8	24.1
21	GMNH-VR-455	♂	40.7	14.3	16.1	17.8	22.0
22	GMNH-VR-459	♂	41.2	14.8	16.0	16.2	21.3
23	GMNH-VR-482	♂	42.8	14.3	15.8	18.8	25.1
24	GMNH-VR-488	♂	44.1	16.6	18.1	19.7	24.2
25	GMNH-VR-489-1	♀	46.3	15.4	16.7	18.3	26.0
26	GMNH-VR-489-2	♂	45.9	16.1	19.0	20.4	24.9

保存液はホルマリン



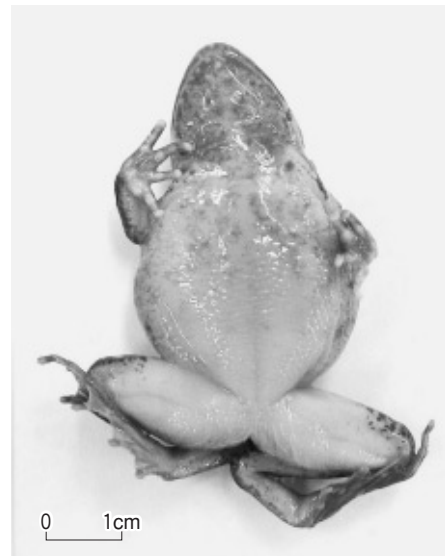
VR-451 ♂ 背側 ×1



VR-451 ♂ 腹側 ×1



VR-444 ♀ 背側 ×1



VR-444 ♀ 腹側 ×1



VR-445-1 ♀ 背側 ×1



VR-445-1 ♀ 腹側 ×1

図4 ナガレタゴガエル標本

ナガレタゴガエル標本

ナガレタゴガエル標本の測定値を表1, ♂, ♀の背側, 腹側の写真を図4に示した. ♂が19体で体長は39.9~46.2mmの範囲, ♀は7体で体長は43.8~53.0mmの範囲であった.

新たに発見された分布

群馬県内の分布地は2000年8月までに32カ所が報告されている(金井ら1993, 1994, 1995, 1997, 1999, 2002). その後, 金井賢一郎によって新たに分布が確認できた地域は次の①から⑤までの5カ所である. 表2のリストと図4の分布地とを合わせて示した.

表2 群馬県で確認されたナガレタゴガエルの生息地

年	地名	標高(m)	収蔵番号
1981	多野郡上野村野栗沢川支流小丸沢(群馬県初記録)	920	GMNH-VR-447
	多野郡上野村野栗沢川支流小丸沢(卵塊)	800	GMNH-VR-448
1982	多野郡上野村野栗沢川支流赤岩沢	770	GMNH-VR-444
	甘楽郡下仁田町市ノ萱川支流貝沢	700~900	GMNH-VR-452
	多野郡神流町神流川支流白水隧道地先	600	
1983	安中市松井田中木川支流星穴沢	500	
	安中市松井田中木川支流鍵沢	550	GMNH-VR-442
1984	高崎市倉渚町烏川支流姫子沢	770~780	
	高崎市倉渚町烏川支流ケサ丸沢	760~790	
1986	多野郡神流町間物沢川支流峠の沢	790~800	GMNH-VR-446
1987	安中市松井田箕輪久保増田川	460	GMNH-VR-459
1993	みどり市東町黒坂石川支流	760~780	
	安中市松井田町中木川支流奥中木沢	770	
1994	桐生市梅田町桐生川支流	440	
	群馬郡榛名町榛名川上流滝ノ平	1075~1140	
	安中市松井田町中木川ダム取入口付近	430, 540	
	甘楽郡下仁田町市ノ萱支流道平川	530~590	GMNH-VR-454
1995	高崎市箕郷町車川支流唐松沢	1000~1015	GMNH-VR-451
	高崎市箕郷町(音羽山東)大沢川	720	GMNH-VR-455
1996	みどり市東町草木横川上流	660~770	
	藤岡市上日野鮎川支流	400, 500	
	安中市松井田町高田川支流諸戸川	450~500	
	多野郡神流町間物沢川上流渡登沢	780~790	
	藤岡市上日野鮎川	400	
	吾妻郡東吾妻町深沢川	830	
	高崎市箕郷町大沢川源流	1010	
1997	多野郡上野村神流川支流乙父沢東沢	620	GMNH-VR-488
	多野郡上野村神流川中越沢	650~660	
1998	多野郡神流町神流川千ノ沢川	610~660	
1998	多野郡上野村神流川	750~760	GMNH-VR-445
	沼田市利根町栗原川支流シラクラ沢	760~790	GMNH-VR-489
2000	多野郡上野村神流川支流葡萄沢	910~920	
	利根郡みなかみ町赤谷川支流小出俣沢千曲平	810~835	GMNH-VR-482
	①安中市松井田町増田川支流中川	530, 570	
2001	②甘楽郡甘楽町鎗川支流雄川	640	
	③沼田市利根町栗原川支流オク半行沢	800	
	④群馬郡榛名町車川支流(無名橋3号付近)	1000	
2002	⑤高崎市倉渚町烏川支流(姫子沢西)	760~840	

①~⑤は新たに確認された生息地。数字は図6~10に対応する。 2006 12 1 現在 計37カ所

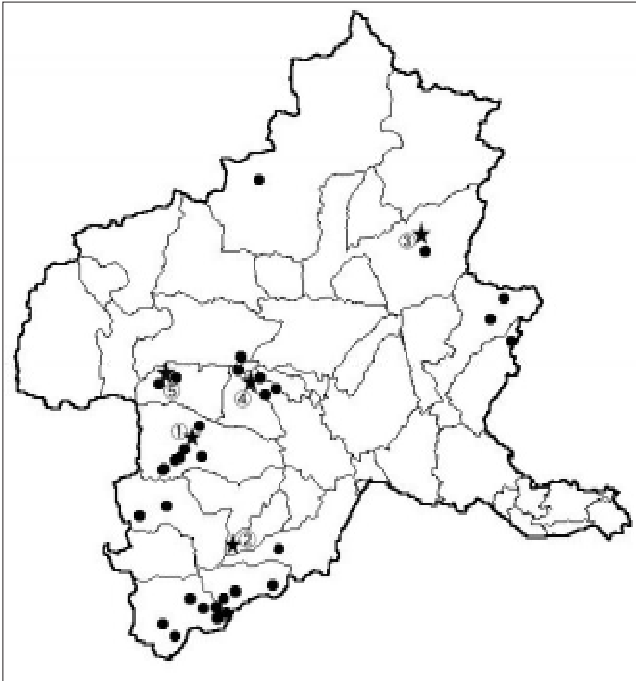


図5 群馬県内のナガレタゴガエルの生息分布
●は2000年8月までの分布，★①～⑤は新たな確認地
計37ヶ所

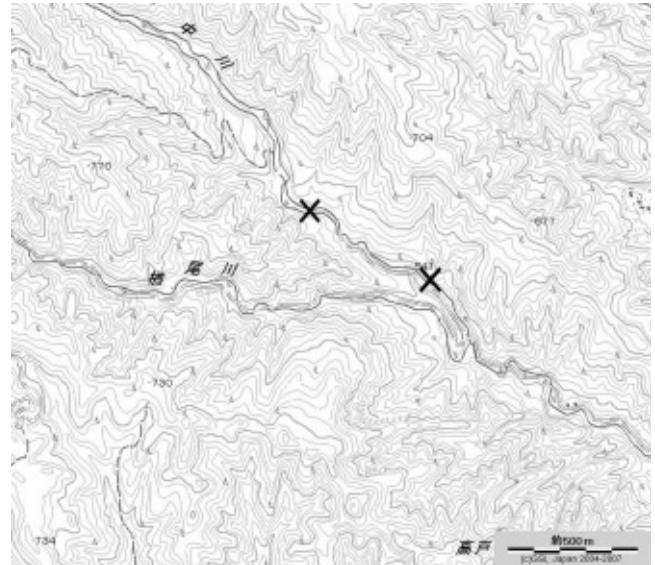


図6 ①2000年10月17日確認
安中市松井田町増田川支流中川 標高550m
国土地理院発行2万5千分の1地形図「軽井沢」を使用

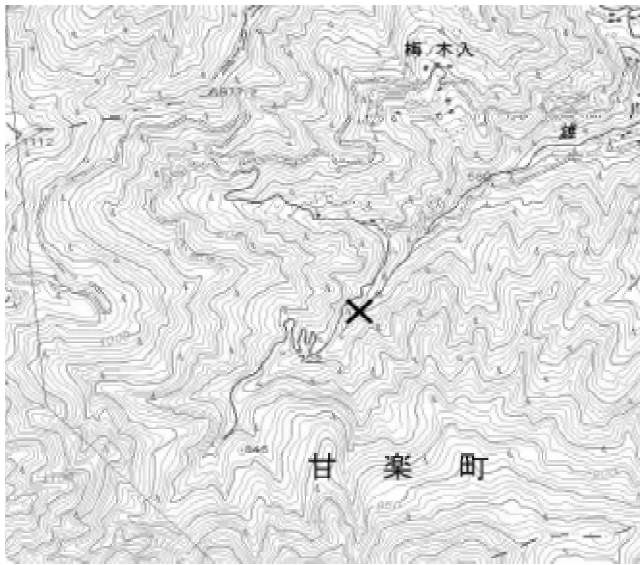


図7 ②2000年10月15日確認
甘楽郡甘楽町鑄川支流雄川 標高640m
国土地理院発行2万5千分の1地形図「下仁田」を使用

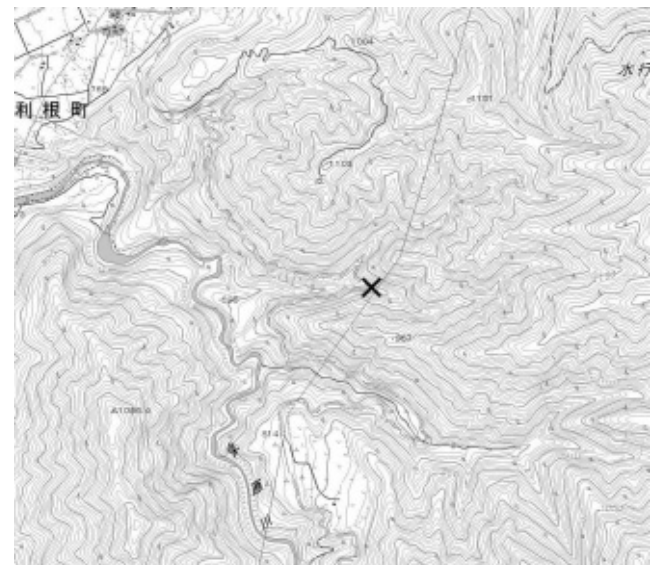


図8 ③2001年5月30日確認
沼田市利根町栗原川支流オク半行沢 標高800m
国土地理院発行2万5千分の1地形図「追貝」を使用

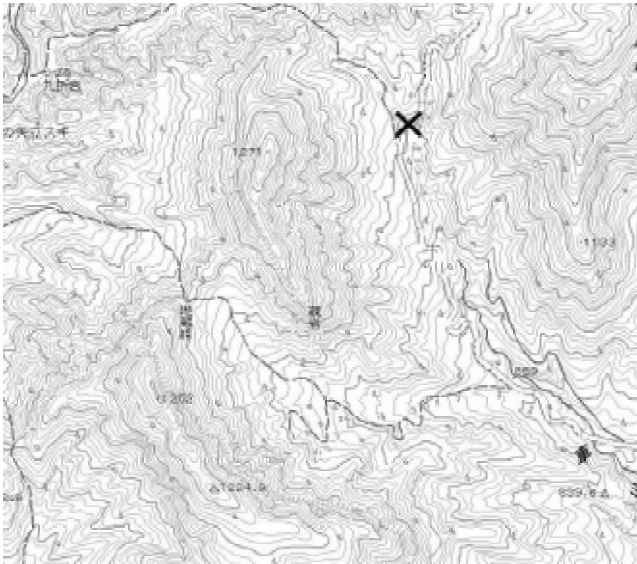


図9④2001年11月29日確認
群馬郡榛名町車川支流（無名橋3号付近）標高1,000m
国土地理院発行2万5千分の1地形図「榛名湖」を使用



図10⑤2002年3月26日確認
高崎市倉沢町烏川支流西ノ沢（姫子沢西）標高760~840m
国土地理院発行2万5千分の1地形図「浅間隠山」を使用

まとめ

金井（2002など）によるとナガレタゴガエルは標高400～1,140mのところでは確認されており，県内西部から中央部，東部にかけて帯状に分布地が広がっている。

群馬県はナガレタゴガエルの分布上の北限にあたるが，県北東部から北西部にかけての分布状況は明らかになっていない．今後，さらに分布調査に取り組んでいきたい。

謝辞

標本（収蔵番号 GMNH-VR-447）の同定，調査の御指導を頂いた松井孝爾氏に御礼申し上げます．また現地調査に同行して頂いた廣瀬文男氏，富岡克寛氏に感謝いたします．査読者の姉崎智子氏には本稿の改善にあたって有益な助言を頂いた．ここに記し，厚く御礼申し上げます．

引用文献

金井賢一郎・廣瀬文男（1982）仮称“ナガレタゴガエル”についての
新発見，群馬生物31：27-28

- 金井賢一郎・廣瀬文男・富岡克寛（1999）群馬県における両生類相調査・研究史 両生類誌2：13-17
- 金井賢一郎・廣瀬文男（1997）群馬県産ナガレタゴガエルの分布と体側位置について群馬生物46：24-27
- 金井賢一郎（2002）群馬県片品川水系及び赤谷川水系におけるナガレタゴガエルの新記録群馬生物51：17-20
- 金井賢一郎・廣瀬文男・富岡克寛・片山満秋（1993）ナガレタゴガエル 良好な自然環境を有する地域学術調査報告書群馬県自然環境課XIX:129-132
- 金井賢一郎・廣瀬文男・富岡克寛・片山満秋（1994）ナガレタゴガエル 良好な自然環境を有する地域学術調査報告書群馬県自然環境課XX:147-151
- 金井賢一郎・廣瀬文男・富岡克寛・片山満秋（1995）ナガレタゴガエル 良好な自然環境を有する地域学術調査報告書群馬県自然環境課XXI:139-145
- 前田憲男・松井正文（1993）日本カエル図鑑 文一総合出版 pp.70-71
- 松井孝爾・桜井淳史（1978）奥多摩産アカガエル属の一種について 爬虫両棲類学雑誌7（4）：105
- 松井孝爾（1982）新種ナガレタゴガエルを発見！アニマ111 平凡社 12-18
- T.Matsui and M.Matsui(1990)A new Brown Frog (genus Rana) from Honshu, Japan. Herpetologica 46. (1): 78-85